



# ハラスメント傾向分析 結果確認方法 (自己分析版)

# ハラスメント分析シート

- 性格適性の組み合わせで、該当するハラスメントタイプとその特徴を確認できます。

## ハラスメント傾向分析シート

※ハラスメント性格適性は「80以上◎、65以上○、50以上△、未満—」と表示します。 ※該当傾向は◎と○のみを該当すると判定します。

「サンプル (202412)」さんのハラスメント傾向は...

「該当傾向なし」で「ハラスメントしない」タイプに当てはまります。

このタイプの特徴は...

「相手の気持を考慮ができるため、ハラスメントする可能性は低い」が特徴です。

※注意 ... 該当しても必ず発現するわけではありません。

このタイプの人へのアドバイス

あなたは他人の気持ちを思いやることができ、相手の立場に立って物事を考える傾向があります。ときには自己中心的になったり、他人をコントロールしたい欲求が芽生えたとしても、相手のことを考えて対人関係を良好に保てるでしょう。ただし、過度なストレスなどで精神面が不安定になると感情のブレーキが効かなくなります。日頃から心身のケアを怠らないことが大切です。

④このタイプの人へのアドバイス

①ハラスメント傾向分類と特徴

②ハラスメント性格適性

③ハラスメントタイプとの該当傾向

### ▼ ハラスメント性格適性

ハラスメントタイプ	感應支配権力型	支配権力型	感情権力型	立場利用型	無神経型
説明	権力を利用して狡猾に支配	権力を利用して支配	感情で権力を利用	自分の立場を利用	無神経に行動して困らせる
特徴	権力を使い精神的に追い詰める。時間をかけて狡猾に支配するため再り気がつきにくい	権力を使って高圧的に追い詰める。長期的に屈服させる	権力を使って高圧的に追い詰める。短絡的なことも多い	自分の立場や社会的風潮を利用して相手を困らせる	相手の気持ちを考えずに困らせる。悪気がないことも多い
例	モラハラ	パワハラ	セクハラ、マタハラ	カスハラ、逆パワハラ	スモハラ、スメハラ
該当傾向	なし	なし	なし	なし	なし
冷淡性 他者に共感できない冷淡性	—	—	—	—	—
無責任性 防衛的で他責思考の無責任性	—	—	—	—	—
自己愛性 優越と称賛を求める自己愛性	◎	○	○	—	—
支配性 他者を操り執着する支配性	○	○	—	—	—
偽装性 狡猾で印象操作する偽装性	—	—	—	—	—

各種ハラスメントタイプは、対象の性格適性(縦列)すべてに該当した場合のみハラスメント傾向ありとなります。また、ハラスメントの絶対条件は「他人を困らせる嫌がらせ行為」であるため、他者に共感できる人(冷淡性が低い人)の場合は、どれだけ他のハラスメント性格適性が該当してもハラスメント傾向なしとなります。

※このシートで出力される数値は、偏差値ではありません。

# ハラスメント分析シート①②

## ① ハラスメント傾向分類とその特徴、② ハラスメント性格適性

① 「サンプル (202412)」さんのハラスメント傾向は...

「該当傾向なし」で「ハラスメントしない」タイプに当てはまります。

このタイプの特徴は...

「相手の気持を考慮することができるため、ハラスメントする可能性は低い」が特徴です。

※注意 ... 該当しても必ず発現するわけではありません。



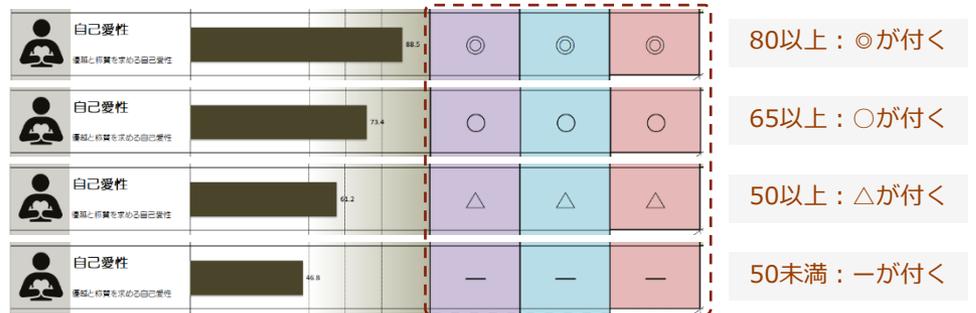
① 7種類のハラスメント傾向とその特徴を表示します。

ハラスメント傾向がある場合は「該当するハラスメント型」、ハラスメント傾向がない場合は「該当傾向なし」、被害者になりやすい場合は「被害者型」を表示します。

ハラスメント傾向がある					傾向がない	
隠匿支配権力型	支配権力型	感情権力型	立場利用型	無神経型	該当傾向なし	被害者型
権力を利用して狡猾に支配	権力を利用して支配	感情で権力を利用して	自分の立場を利用して	無神経に行動して困らせる	ハラスメントしない	被害者になりやすい

② 5種類のハラスメント性格適性の適合度を表示します。

上位の要素は、その性格を持つと考え、下位の要素は、その性格を持たないと考えます。高いから悪いと考えず、まずは本人の性格的特徴と捉えてください。また、下図のように数値により横一列に適合度を示すマークを表示します。



※横一列に同じマークが付きます。

# ハラスメント分析シート③④

## ③ハラスメントタイプとの該当傾向、④該当タイプへの関わり方や心得

③

ハラスメントタイプ	権威支配権力型	支配権力型	感情権力型	立場利用型	無神経型
説明	権威を利用して強制的に支配	権威を利用して支配	感情で権威を利用	自分の立場を利用	無神経に行動して困らせる
特徴	権威を強い権威的な品、物、物、言葉をかけて強制的に支配する。強制的に支配される。強制的に支配される。	権威を使って高圧的に強い。強制的に支配される。強制的に支配される。	感情を使って高圧的に強い。強制的に支配される。強制的に支配される。	自分の立場や社会的風潮を利用して相手を困らせる。	相手の気持ちを考えずに困らせる。無神経に行動する。
例	モラハラ	パワハラ	セクハラ、マクハラ	カスハラ、逆パワハラ	スモハラ、スメハラ
該当傾向	なし	あり	あり	あり	あり
67.2	○	○	○	○	○
69.7	○	○	○	○	○
88.5	◎	◎	◎		
68.2	○	○			
	—				

各種ハラスメントタイプは、対象の性格適性(縦列)すべてに該当した場合のみハラスメント傾向となります。また、ハラスメントの絶対条件は「他人を困らせる嫌がらせ行為」であるため、他者に共感できる人(冷淡性が低い人)の場合は、どれだけ他のハラスメント性格適性が該当してもハラスメント傾向なしとなります。

— を含む (該当傾向: なし)

全て◎と○ (該当傾向: あり)

④

### このタイプの人へのアドバイス

あなたは他人の気持ちを思いやることができ、相手の立場に立って物事を考える傾向があります。ときには自己中心的になったり、他人をコントロールしたい欲求が芽生えたとしても、相手のことを考えて対人関係を良好に保てるでしょう。ただし、過度なストレスなどで精神面が不安定になると感情のブレーキが効かなくなります。日頃から心身のケアを怠らないことが大切です。

### ③5種類に分けられたハラスメントタイプとの該当傾向とその解説を表示します。

各ハラスメントタイプの「該当傾向」は、**対象の性格適性すべてが高い(縦列すべてが◎と○で埋まった)場合のみ「あり」となり、性格適性が1つでも低い(縦列に△や—を含む)場合は「なし」となります。**ハラスメントの絶対条件は「他人を困らせる嫌がらせ行為」であるため、思いやりがあり他者に共感できる人(冷淡性が低い人)は、どれだけ他の性格適性が高くても「該当傾向なし」と判断します。

**【注意】**ハラスメントは、本人の性格適性だけでなく、環境など複合的な要因で発現します。分析結果で「該当あり」の結果が算出されても、必ず発現するわけではありません。また、ハラスメント傾向が「なし」の場合でも、環境や周囲の人の影響、メンタルヘルス不調により発現することがあります。**発現条件は、個人適性と環境の掛け合わせ**とを考えてください。

### ④このハラスメントタイプの人へのアドバイスを表示します。

タイプ別で全7パターン of アドバイス内容が表示されます。

## POINT

ハラスメントは相手がいって初めて成立します。それは、加害者の性格だけでなく被害者の性格も発現要因となることを意味します。ハラスメントを未然に予防するために、加害傾向者の意識改革はもちろん、被害傾向者の意識改革、さらには組織(環境)の意識改革が必要です。つまり、複合的なハラスメント対策が重要となります。



# ハラスメント性格適性の解説

## ■ 5種類のハラスメント性格適性の傾向と特徴を解説

ハラスメント性格適性	この適性が高い人に見られる傾向
<b>冷淡性</b> 他者に共感できない冷淡性	他人の感情に流されることが少なく、自分の悲しみや悲哀の感情にもあまり浸ることがありません。他人に対する関心が薄く、物事を自分の中での合理性で考える傾向があります。相手の感情よりも理屈を重視するため、他者の苦しみに対しても冷静な姿勢を保ちます。ときに許せない相手に対しては執拗な態度を取ることがあります。また、他人に対して肯定的な感情をあまり示さず、距離を置いた冷めた態度は相手を軽視していると感じさせることがあります。
<b>無責任性</b> 防衛的で他責思考の無責任性	物事の責任を自分で負うよりも、周囲に委ねることが多い傾向があります。自分に向けられた批判や攻撃に対して強い警戒心を抱き、何気ない出来事であっても悪意が含まれているのではないかと考えることで、他者に対して不信感を抱くことがあります。自分の考えや価値観に執着しすぎることで、物事の善悪を自分視点で捉えてしまうことがあります。また、ストレス解消の矛先を他者に向けてしまうことで対立を生むこともあります。
<b>自己愛性</b> 優越と称賛を求める自己愛性	自分に対して強い自信を持ち、重要な存在であると感じる傾向があります。成功や権力を手にする未来を思い描き、その可能性に限界を設けない前向きな姿勢を持っています。また、周囲からの称賛を求めることが多く、自分の成果や成功は自らの力によるものだと考える傾向があります。他人の成功や幸福に対して強い関心と執着があり、弱者に対しては優越感を持ちやすく、成功者に対しては羨望と嫉妬から相手を一方的に敵視する感情を持つことがあります。
<b>支配性</b> 他者を操り執着する支配性	人間関係において自分を中心に考え、相手との関わりを戦略的に捉える傾向があります。自分の意図に沿って相手が動くことを求め、主導権を握ることに安心感を覚えます。魅力的で影響力のある人を脅威に感じ、その相手を上手くコントロールしたいと考えます。それが思い通りにならない場合にはストレスを感じ、ときに自分の前から排除したいと考えることがあります。また、期待していた相手に失望したときには、悲しみよりも怒りや不満が先に立ち、その感情が長く続くこともあります。
<b>偽装性</b> 狡猾で印象操作する偽装性	状況に応じて柔軟に立ち回ることが得意で、周囲からは常識的で感じの良い人物として見られることが多いです。対人関係では、実際には自分が依存している相手も相手も依存しているように見せたり、ときには被害者として振る舞うことで主導権を握ることがあります。自分の魅力を活かして人を引きつけ、相手に合わせて自分の印象をコントロールすることにも長けています。また、制限されたルールを巧みにすり抜けることに楽しさを感じる傾向があります。

# ハラスメントタイプへのアドバイス①

## ■ 5種類のハラスメントタイプの傾向とアドバイス（次頁に続く）

ハラスメントタイプ	該当する性格適性	このタイプに該当する人へのアドバイス
<b>隠匿支配権力型</b> 権力を使い精神的に追い詰める。時間をかけて狡猾に支配するため周りが気づきにくい	<ul style="list-style-type: none"><li>・冷淡性</li><li>・無責任性</li><li>・自己愛性</li><li>・支配性</li><li>・偽装性</li></ul>	あなたは周囲からの評価や印象に敏感で、場の空気を読みながら巧みにふるまう能力に優れているかもしれません。しかし、相手をコントロールできてしまうことで、気づかないうちに人間関係に悪い影響を与えている可能性があります。人によって態度を変えたり、被害者を装うことは、結果的に信頼を損なうことに繋がります。自分の本音と向き合い、誠実な関係を築く意識が大切です。
<b>支配権力型</b> 権力を使って高圧的に追い詰める。長期的に屈服させる	<ul style="list-style-type: none"><li>・冷淡性</li><li>・無責任性</li><li>・自己愛性</li><li>・支配性</li></ul>	あなたは自分の思い通りに物事を進めたいという強い意志を持ち、リーダーシップにも長けているかもしれません。しかし、相手を自分の意のままに動かそうとしたり、長期的に支配しようとする傾向がある場合、人との間に不信感や抵抗が生まれやすくなります。対人関係を良好に保つには、相手にも選択の自由があることを認め、対等な関係を意識することが重要です。
<b>感情権力型</b> 権力を使って高圧的に追い詰める。短絡的なことも多い	<ul style="list-style-type: none"><li>・冷淡性</li><li>・無責任性</li><li>・自己愛性</li></ul>	あなたは向上心が強く、周囲からの評価や成功のために前向きに行動できる傾向があります。その反面、他人と比べて自分が劣っていると感じると、強いストレスや怒りを抱えてしまうことも。感情的に相手を追い詰めたり、自分を正当化しすぎると信頼を失いやすくなります。他人の成功を素直に認め、感情の起伏を冷静に受け止める意識を持つことで、より健全な人間関係を築くことができます。
<b>立場利用型</b> 自分の立場や社会的風潮を利用して相手を困らせる	<ul style="list-style-type: none"><li>・冷淡性</li><li>・無責任性</li></ul>	あなたは立場や役割を合理的に理解して行動できる人かもしれません。その一方で、自分の権限や環境を盾にして相手に過度な負担や責任を押しつけてしまう可能性があります。また、自分を守るために他人を悪者にしてしまうことも。人と信頼関係を築くためには、相手の立場や視点にも目を向け、お互いを尊重する意識を持つことが大切です。
<b>無神経型</b> 相手の気持ちを考えずに困らせる。悪気がないことも多い	<ul style="list-style-type: none"><li>・冷淡性</li></ul>	あなたは論理的で感情に流されにくく、物事を冷静に判断できる人かもしれません。その反面、他人の気持ちに配慮することが苦手な可能性があります。自分では悪気がない言動でも、相手にとっては冷たく感じられることがあります。対人関係を良好に保つためには、相手の立場や感情を意識すること、ときには共感や思いやりの言葉を添えることを心がけてみましょう。

# ハラスメントタイプへのアドバイス②

## ■ 5種類のハラスメントタイプの傾向とアドバイス（前頁の続き）

ハラスメントタイプ	該当する性格適性	このタイプに該当する人へのアドバイス
<b>該当傾向なし</b> 相手の気持ちを考えることができるため、ハラスメントする可能性は低い	一部該当するが、ハラスメント傾向の必須条件である冷淡性に該当しない	あなたは他人の気持ちを思いやることができ、相手の立場に立って物事を考える傾向があります。ときには自己中心的になったり、他人をコントロールしたい欲求が芽生えたとしても、相手のことを考えて対人関係を良好に保てるでしょう。ただし、過度なストレスなどで精神面が不安定になると感情のブレーキが効かなくなります。日頃から心身のケアを怠らないことが大切です。
<b>被害者型</b> 自分のことよりも相手の気持ちを考えすぎるため、ハラスメントしなさがされやすい	冷淡性を含む全てのハラスメント性格気質に該当しない	あなたは思いやりがあり、相手の感情や状況を深く理解しようとする傾向があります。相手を不快にさせないよう常に気を配るため、自分の気持ちを抑え込んでしまいがちです。その結果、相手に利用されたり、不当な扱いを受けることもあるかもしれません。対人関係を良好に保つためには、「ノー」と言う勇気を持ち、自分の気持ちにも正直になることが大切です。

# ハラスメント傾向分析の留意点

## 1. 診断の目的について

本診断は、会社で働く従業員を守り、組織全体を健全に保つことを目的としています。ハラスメントのリスクを早期に把握し、予防策を講じることで、誰もが安心して働ける職場環境を構築するための一助となることを目指しています。

## 2. 特定・差別の禁止

本診断は、ハラスメント傾向者を特定し、差別することを意図したものではありません。診断結果はあくまで傾向を示すものであり、特定の個人を排除したり、不当な評価を下したりするためのものではありません。

## 3. 情報開示の厳格な管理

診断結果は、管理者や受診者本人以外には決して開示しないでください。個人情報保護の観点から、受診者のプライバシーを最大限に尊重し、機密保持を徹底してください。

## 4. 結果の参考利用と評価への不使用

診断結果は、あくまで参考情報として活用し、入社や昇進、配置転換などの人事評価に直接的に用いないでください。この結果のみで個人の能力や適性を判断することは適切ではありません。

## 5. 傾向者の多様な可能性

ハラスメント傾向特性を持つ方が、組織において極めて高い能力を発揮するケースも少なくありません。これは、特性が必ずしもネガティブな側面のみを持つわけではないことを示唆しています。「傾向がある＝悪い」と軽率に判断せず、その方の持つ多様な可能性を理解し、適切な支援や育成に繋げる視点を持つことが重要です。

## 6. 個人の成長と成功への活用

本診断は、ハラスメント傾向を把握することで、受検者を排他的にするのではなく、その傾向を踏まえて個人の成長と成功を支援するためのツールとしてご活用ください。例えば、特定の傾向を持つ方に対して、コミュニケーションスキル研修やアンガーマネジメントの機会を提供するなど、ポジティブな介入を検討してください。

## 7. 事前同意と結果のフィードバック

本診断は、受検者の秘密裏に実施するものではありません。必ず事前に診断の目的と内容について十分に説明し、本人の同意を得た上で実施してください。また、必要に応じて診断結果を本人にフィードバックし、今後の行動改善や成長に繋がるよう、建設的な対話を心がけてください。

## 8. 継続的なフォローアップの重要性

診断は一度きりのものではなく、診断結果に基づいて継続的なフォローアップを行うことが極めて重要です。例えば、研修の実施後や一定期間経過後に再度診断を行うことで、改善の状況や新たな課題を把握し、より効果的なハラスメント対策を講じることができます。

## 9. 専門家との連携

診断結果の解釈や、そこから導かれる具体的な施策の策定に不安がある場合は、産業医やカウンセラー、人事コンサルタントなど、専門家との連携を積極的にご検討ください。客観的な視点や専門的な知識を取り入れることで、より適切かつ効果的な対応が可能になります。

## 10. 組織文化の醸成

本診断は、あくまでツールの一つに過ぎません。最も重要なのは、ハラスメントを許さないという強いメッセージを組織全体で共有し、従業員一人ひとりが相互に尊重し合える組織文化を醸成することです。診断結果を活用しつつ、定期的な研修や啓発活動を通じて、従業員のハラスメントに対する意識を高めていくことが不可欠です。